

校長室だより～和光高校今昔 第18号 H26.9.5

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

Bコースよ 永遠なれ

現学校評議員の柳下正章さん（第9期生）は「高校生の頃、雨が降ると体育はBコースと決まっていた。1周1km弱を制限時間5分、マラソン大会前は10周でしたが大体5週くらいが基準でした。追走が大変だったので、ラグビー部の仲間とほぼ全時間全力疾走していました」と思い出を語ってくれました。柳下さんに限らず、1万人を超える卒業生の誰もが、「和光高校と言えばBコース」というくらい印象に残っていると思います。そして今でもBコース健在と知ると本当に懐かしみ喜んでくれます。高校生の時は嫌で嫌でたまらなかったBコースが、何年か経つと良き？思い出となるのは、そこで鍛えられ得られた「何か」が人生においてかなり重要なものであったことを知っているからでしょう。



さて、このBコースの歴史を辿ると開校当初にさかのぼります。体育館もなく、グラウンドも整備されていない学校黎明期に、結果としてランニングが体育の主要メニューとなったのは必然とも言えるでしょう。ただし他校と較べ大きく異なるのが、「雨でもBコース」というよりは「雨ならBコース」ということばでした。20周年記念誌で高島朗初代校長先生が「外周マラソン」という題でこのことに触れていらっしゃいます。



体育の時間によく学校の外周道路を走りました。雨が少しぐらい降っても吉田先生は先頭に立って走っていました。翌日「女子生徒を雨の中で走らせるとは何ごとか」という電話がよくかかってきました。私も校長室が暑

いので午後はよく生徒と走り、この習慣が現在も続いています。

根っからの教育者そしてスポーツマンの高島先生の信念を垣間見る気がします。私もぜひ見習わなければと反省しています。

さて、よく言われるのですが当然ながらAコースも存在していました。すでに柳下さんが在籍していた昭和55年以降はほとんど使わなかったよ



うですが、開校当初から体育科を支えてきた小原英資先生にお聞きすると、荒川の河川敷まで相当の距離を走るのがAコース、新倉神社まで走るのがCコースだったそうです。そしてやや後の時代、昭和60年ころ、Bコースが舗装工事で使用できなかつたときに石丸・武井先生らが開発した、やはり河川敷に近い畑を巡る「田園コース」(Dコース)などもできました。ただし、交通事情の悪化つまり車の通行量が増えて危険度が増してきたことなどによりBコース以外は部活動などで使われるほかは自然消滅となったようです。

ただし、区画整理や道路の変化から現在のBコースは少しだけ短くなったようです。しかしながら最初にこのコースを設定した秀逸さは、1kmという距離にあったわけです。マラソン大会の練習としては非常に分かり易い距離でした。1kmのペースを自分で把握することは、トップクラスから市民ランナーに至るまで長距離ランナーの鉄則です。3年間繰り返し走ることによって、速い生徒も遅い生徒も自分のペースを知り、向上への努力と実際の進歩を体験しました。人生に例えるのは少し大げさかもしれませんが、その道しるべとなりそれぞれの矜持になったと考えます。



私も若いころ何度か生徒と一緒に体育の時間に走りました。吉田道行先生にラストスパートで追い抜かれ、「まだまだ若い奴らには負けませんから」と25歳の時の自分が43歳の吉田先生に言われた悔しさが思い出に残っています。秋になり涼しくなったら再びチャレンジしようかと考えています。